

ご寄付

ありがとうございます

ご利用できます

この度、遠藤喜志雄・やま子（ご夫妻（郡山市在住）より、雁股田字永風地内に所有する山林（約23㍍）をご寄付いただきました。

これは、「山林を地域振興のための一助として、是非活用していただきたい。」というご厚意により、いただいたものであります。

今後、町有林として引続き森林整備に努め、森林資源の有効活用を図って参ります。

ご寄付いただきました遠藤ご夫妻に対し、紙上より厚く御礼申し上げます。



遠藤喜志雄さん

安心して

ご利用できます

高速バス「いわき〜仙台線」が予約制度となりました

高速バスは、平成17年10月の小野ICバス停の開設以来、多くの市民に利用されています。

平成19年2月1日からは、一部の路線に予約制度が導入され、より安心して利用できるようになりました。

予約制度が導入された路線は、「いわき〜仙台線」で、往復ともに予約制となります。

なお、当日空席があれば、予約なしでもご利用になれます。詳しくは、運行各社までお問い合わせください。

◇電話予約先

新常磐交通高速バス予約センター
☎0246-446-0222

◇問い合わせ

新常磐交通乗合部
☎0246-446-1646
JRバス東北 仙台支店
☎022-2556-4512

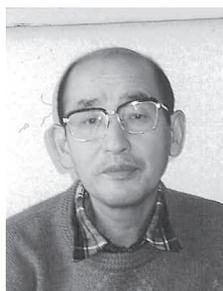


ふるさと小野町会 ふれあい通信

覆水は盆に帰らず

佐藤 武 巨

（夏井出身・神奈川支部）



わたしが小野の地に産声を上げて早や63年、爾来上京までの18年間にこの地で過ごしました。小学生の頃は未だ「夏井村」で、現在の夏井の地は、大字「北田原井」と称していました。わたしはこの頃から歴史に興味を持ち、祖父や近所のお年寄りに、いろいろな歴史や由緒を聞いてはメモを取っていました。しかし、当時存在した多くの遺跡や遺産は、その後何の調査も保存策も取られないまま姿を消し、いまはその跡形すら残っていないのが現状です。先人が残したこれら貴重な遺跡や遺産を何の惜しげもなくポイ捨てる現代社会に警笛を鳴らすと共に、強い憤りを覚えます。そんな

失われた遺産から2、3を紹介し、残された遺産の保護を訴えるものです。

大字夏井磁沢の地に、「鏝塚」「冑塚」「死人塚」の3塚があり、近くにあった大石のたもとには五輪の供養塔も残されていました。この3塚こそ、天正11年（1583年）、

岩城忠次郎（常隆）の軍勢が田村領に攻め入った折り、領界だったこの地で激戦が交わされ、多くの戦死者を出しました。このときの人馬の死骸を葬ったのがこの3塚と聞いています。このとき田原井、小野の城も落ち、田村軍は三春本城まで追い詰められました。幸い伊達氏と佐竹氏の仲裁で和解が成立し、岩城勢は引き上げました。この塚は、この戦国史を伝える貴重な遺構だったのです。祖父のころまでは子孫の手で念仏供養も営まれていたようですが、遺跡の消滅とともに、そちらも姿を消したようです。

雲林寺の入り口には大人3人でやっと抱えられるキヤラの大木があり、同寺創建の歴史を伝えていました。原屋敷にあったもみじは、這って登れるほどの巨木で、紅葉の季節、磐越東線の乗客は、ワーツと

歓声を上げてこれを賞でたそうです。近くにあったコブシやモチの木も樹齢数百年は下らない古木で、この種の天然木がこの地に存在することすら、大変珍しいものでした。その他、経塚や観音さまの桜も見事で、播種や植付け時の曆木の役目を果たしていたようです。

しかし、これらの遺産はこの半世紀ですべて姿を消し、現在はその跡形も留めていません。「覆水は盆に帰らず。」失われたものは二度と元には戻りません。仮にこれらの遺産が今日まで残され、「千本桜」とセツトで観光客を迎えられたら…と残念でなりません。

町でも、これらの遺跡や遺産の保全に、行政上のバックアップをして欲しいと思います。小野小町も大いに結構ですが、歴史と伝説を見誤ってはならないと思います。むしろ今に残る原地蔵尊の「ミス樞」や、橋本の「天然藤」等を保存木に指定し、早急にその保護に努めることこそ肝要かと思

います。毎日見ている萱葺屋根や寄棟造りの民家も、あと何年この地に姿を留めるか、文化財保護行政に期待を寄せるところです。